

ピアニストの健康エッセイ・5

子供と音楽・1

赤ちゃんを抱いたお母さん方から「子供にはどんなクラシック音楽を聴かせればいいですか？」と質問されることがあります。

そんな時世間では子供に聴かせる音楽として、モーツァルトの音楽が推奨されることが多いようです。とにかく、お腹にいるうちからモーツァルトを聴かせると情緒豊かに育つ、頭が良くなる・・・等の声をよく耳にしますが、果たして本当でしょうか。

私は教育や音楽療法の専門家ではありませんが、音楽に携わる人間として、自分の子供でいろいろ実験しないわけにはいきません。(現在も進行形です)

そんなわけで、子供がお腹の中で聴覚が出来上がる頃から様々な音楽を聴かせてきました。

毎日朝からクラシックのCDを流し、日課である自らのピアノ練習に加え、時にはコンサートホールで生のオーケストラの音に包まれることもありました。胎教としてはバッチリのはずです。

生まれてきたらきっと、お腹の中でよく聴いたモーツァルトを流すと夜泣きがおさまるかも、などいろんな期待をしていたのですが、実際の赤ちゃんはというと・・・

どんな音楽を聴かせるよりも、母親の声(歌声)が一番落ち着くようでした。

モーツァルトを聴かせても機嫌が悪い時、私が適当な童謡を歌うとぐっすり眠ってしまうのです。

ちなみにモーツァルトでも人の声が入っているもの(オペラなど)は、余計興奮してしまうことがありました。

子供にとって、母親の存在の大きさは計り知れません。

その母親の「優しい」声が赤ちゃんにとってはどの音楽にも勝る、一番安心できる音なのでしょう。

胎教はじめ子供に聴かせる音楽ではなく、まずはお母さん自身が気分よく過ごせるための音楽をセレクトするのがいいと思います。

私自身は、妊娠中はドラマティックな音楽を聴くと情緒不安定になるので自然と避け、やはりモーツァルトを好んで聴いていました。そして産後はヨハン・シュトラウスのウィンナー・ワルツを聴きながら、子供を抱っこして部屋の中でクルクル踊ったりしたことも。

どの音楽を聴いて楽しいかは人それぞれなので、子供のために無理をしてもこの曲を聴かねば、などと思う必要はありません。それよりも自分自身が好きなものを知ることの方が大事です。

子供にとって最上の音楽であるお母さんの歌、いつも機嫌よく優しい声で歌えるように心がけたいものですね。

丸山美由紀(ピアニスト、糸魚川市在住)